

行 動

日々の活動

<ごみ集め>

毎週水曜日に、各そうじ場所のごみ集めを行っている。集めたごみは月ごとに集計し、エコステーションの前に掲示している。

<資源回収>

毎月第2・第4月曜日に地域の資源回収に参加している。地域の人に教えてもらいながら、子どもたち自身の手で資源ごみの分別をしていく。



環境委員会

リサイクル運動

各教室に、「プラ資源入れ」、「リサイクルボックス（紙資源入れ）」、「エコキャップ入れ」の3つの箱を設置している。各教室で、分別することにより、一人一人の環境問題への意識も高まった。昨年度、エコキャップは約2万8000個集まり、18人分のポリオワクチンになった。環境を守る分別活動が、人の命を守ることもつながる。また、今年度は「ニチバン巻心エコプロジェクト」に取り組んだ。テープの巻心が植樹活動につながり、自然を守ることもつながった。



←左から
プラ資源入れ
リサイクルボックス
エコキャップ入れ

エコランド

6月の環境月間に合わせて、環境委員会の児童を中心にエコランドを実施した。目的は、外で遊べない梅雨の時期に、資源物を使って遊びの場を作り、エコな活動に関心を持ってもらうことである。今年度は「ペットボトルボウリング」、「段ボール空気砲」、「わりばし銃」、「空き缶積み」の4つの遊びを企画し、実施した。資源ごみを活用しておもちゃを作り、それを使って楽しく遊ぶことで環境を守ろうとする心を育てる一歩となった。



5年こどもエコクラブ

県環境センターを訪問し、水質汚染やごみ問題について考えてきた。きれいで気持ちの良い町にするために、自分たちができることを考えた。学習の成果は、ただの発表会や壁新聞(こどもエコクラブ壁新聞展)で発信している。また、JAの協力を頂き、稲作にも取り組み、豊かな水資源に感謝する気持ちや自分たちの手で守ることの大切さを学んだ。



節電

電気係を設けたり、クラスISO宣言に設定したりするなどして取り組んでいる。職員室も、不在の時にはこまめにスイッチを切るようにしている。

一人一鉢運動<グリーンタイム>

全校児童で学級園と一人一鉢を植え、育てている。登校時に学級園の草ぬきをする児童も増え、自分たちの手で美しい学校づくりに関われるよい機会となっている。

節水

バケツ半分の水でそうじをして、水の使用量を抑えたり、石けんで手をこすっている間は水を止めて、水を出しっぱなしにすることのないようにしたりしている。

エコピカウィーク

学期末にエコピカウィークを設定し、普段そうじできないところをきれいにしている。校庭のそうじをして出てきたごみを見て、学校のごみ問題に気づき、自分から進んでごみを拾おうとする姿勢につながった。

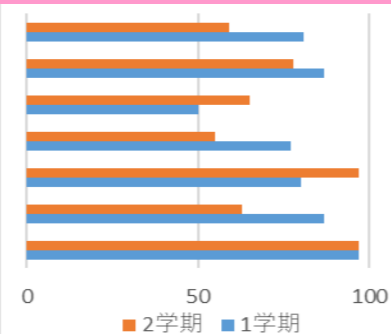


点 検 ・ 記 録

日奈久 ISO 調べ

学期に一度、環境委員会の児童が各クラスにISOの達成状況の聞き取りを行っている。下のグラフからも分かるように、使わない電気をこまめに消すことと、バケツ半分の水でそうじすることについては、ほとんどの児童が取り組んでいる。また、自分のものを大切に、落とし物をごみにしない姿勢やものを大事にする心も育ってきている。ものをごみにしないことで、守られる自然がある。

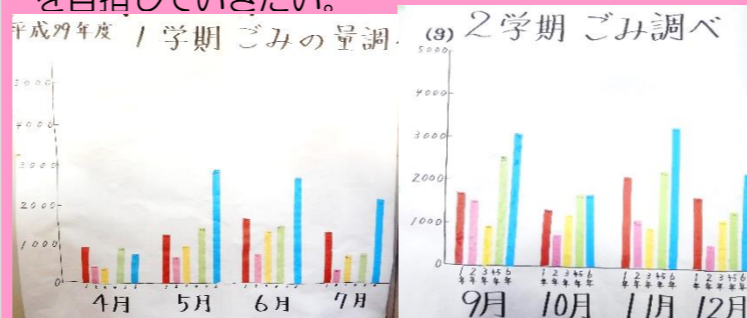
- 家でもISO活動に取り組もう
- ティッシュのふくろなどはプラ資源入れに入れよう
- 自分のものには名前を書いて大切にしよう
- 手の平より大きな紙はリサイクルボックスに入れよう
- バケツ半分の水でそうじをしよう
- 手あらいで石けんをつけるときは水を止めよう
- 使わない電気はこまめに消そう



月別ごみの量調べ

ごみ集めでは、燃えるごみの中に資源物を見つけたり、各教室から出されるごみの種類に着目したりしながら活動することができた。

児童は、ごみの減量を呼びかけるだけでなく、こんな種類のごみが多いから、減らすためにどうしたらよいか考える児童も出てきた。これからも、継続して取り組み、日奈久小学校のごみ削減を目指していきたい。



見 直 し

今年度は、「見える」環境教育を意識して取り組んで来た。ごみの量のグラフ化、エコピカウィークで拾ったごみの写真の掲示、各教室への資源ごみ回収箱の設置など、日常的に児童が環境について考えられるようにした。これまで以上に、一人一人が環境問題を意識し、その解決に向けて、自分にできることを考える姿が見られるようになってきた。委員会の児童も、自分たちが、学校全体に向けて発信するのだという自覚と責任を持ち、取り組みを行っていた。

5年生は、総合的な学習の時間で水俣病について学んだことを活かして、身近な環境を守ろうとする気持ちにつながった。

環境問題に関わる機会の多い委員会の児童や5年生の意識は高まってきているが、ISO点検の結果からも分かるように、学校全体で見ると、まだ、課題が残る。

今後は、環境教育の取組の中で、児童が主体的に課題を解決する方法を探るとともに、学校総体として、資料の効果的な活用や体験活動等を通して、児童の発達段階を考慮した取組を継続し、「心を育てる」環境教育の実践力の向上につなげていく。

